



インタビューは、令和8年1月14日、本荘地区更生保護サポートセンターが入居する西目公民館シーガル内で行われました。

【特別インタビュー】

いつも自分を気にかけてくれた保護司さん。

その出会いが今の自分に変えてくれた。

令和7年10月14日、由利本荘市で開催した「保護司セミナー」の出席者から「以前保護観察を受けていた」との自己紹介があり、後日インタビューを行いました。

お話しいただいたのは、セミナーに商工会青年部として出席した、由利本荘市の市議会議員でもある橋島達也さん（38歳）。保護司さんとの出会いや交流によって生まれた変化、社会とのつながりの大切さ、そして更生保護に期待することなど、貴重なお話をうかがうことができました。（聞き手 秋田保護観察所企画調整課長 富樫）

自分さえよければいい。そんな思いが、非行のきっかけに。

—少年のころ、保護観察を受けていたとうかがいました。

**橋島** 中学3年のときに傷害と恐喝で警察のお世話になりました。当時は荒れていて、仲間と一緒に悪さをしているような生活でした。高校入学後も取調べは続いていたので、それで退学処分になってしまっって、その後家庭裁判所で保護観察となりました。

—当時の生活を振り返って、今どのように感じますか。

**橋島** 当時は、「自分さえよければいい」みたいな独り善がりな考え方でした。まわりのことを考えないで、自分とか友達さえよければいいみたいな。  
—ご家族も心配されていたと思います。

**橋島** 今思うと、ちょっと特殊な家庭環境だったかもしれないですね。当時は、おじいちゃん、おばあちゃんと妹の4人で暮らしていて、親とは離れて生活していました。ただ、寂しいとかそういう感情はなくて、自分は「おじいちゃん、おばあちゃん」だったので、その方が楽だなど思っていました。

担当してくれたのは市議会議員の保護司

—保護観察を受けていたときに担当してくれていた保護司さんのことは憶えていますか。

**橋島** はい。よく覚えています。女性の方で、由利本荘市で市議会議員をされている方でした。  
—市議会議員さんだったんですね。

**橋島** はい。肩書だけ聞いたと



### 橋島 達也 (はしじま たつや)

1987年本荘市(現由利本荘市)生まれ(38歳)。高校卒業後、2016年に由利本荘市内に「Sports Bar GARAGE」を開業。2025年4月、由利本荘市議会議員補欠選挙に立候補し、初当選。一般社団法人由利本荘市青年会議所に所属するほか、由利本荘市商工会青年部副部長としても活動し、地域の活性化に尽力している。2025年10月に秋田県保護司会連合会が開催した保護司セミナーに出席し、秋田保護観察所が実施している保護司活動メンバーシップにも登録している。妻と子と愛犬の4人家族。

きに、すごい堅苦しいおばさんなのかな、嫌だなとか思ってたんですけど、いざ会ってみると、気さくて朗らかな方でした。はじめのころは緊張していましたが、それ以降は逆に会うのが楽しみになるように変わってきました。

「保護司さんとの面接が楽しかったですね。」

橋島 保護司さんの家や自分の家で面接するときもあったんですけど、外でお昼ご飯と一緒に食べながら話すようなことも多かったと思います。次面接のとき何食べに行こうか、みたいな会話をしながら「次、肉食べたいです」と言うと、「じゃあ今度はどこどこに行って面接しようか」といった感じでした。

「保護司さんとの思い出で、印象深いことはありますか。」

橋島 当時、通信制の高校に通いながら、ガソリンスタンドと中華レストランのアルバイトを掛け持ちしていたんですけど、保護司さんがアルバイト先に来てくれることがあって、すごく嬉しかったのを覚えています。アルバイトの時間帯に合わせてわざわざガソリンを入れて来てくれたりとか、レストランにご飯食べに来てくれたりとか。頑張っている姿を応援してくれるのは嬉しいですね。保護司さんとの距離も縮まっていたのではないのでしょうか。

「辛いことや不安があっても、誰かに話すことで気持ちが楽になって、もう少し頑張ってみよう」と前向きになることもあると思います。保護司さんとのふれあいは、貴重な時間でしたね。

橋島 そうですね。最初のころは、近況について訊かれても、「特に何もないです」で答えがちだったんですが、途中から、

わった人がいたとか、保護司さんと会うときに話すネタを、次会うまでの間に貯めておくような感じでした。こういうミスをして店長に怒られましたとか、思いっきり叩かれて痛かったんですよとかいうのは、カッコ悪くて家族には言えないんですね。でも、担当してくれた保護司さんは絶妙な距離感を取ってくれていて、「ええそうだったの」と自分の話を聴いてくれていましたね。

それだと何の進展もないなと思って、何でもいから面白いことあったら保護司さんに話してみようと思うようになって、そういう何でも話してもいい場を作ってくれたのはすごくよかったです。たなと思っています。

**保護司さんは自分を気にかけてくれる、深い付き合いの親戚みたいな存在。交流によつて生まれた「変化」**

「エピソードをうかがうと、保護司さんは、家族でも親戚でもないのに自分のことを気にかけてくれる、特別な存在のように感じます。橋島さんにとつて保護司さんほどのような存在でしたか。

**橋島** 保護司さんとは、保護観察という限られた期間でしか接することはなかったんですが、

とても深い付き合いの親戚みたいな、そんな存在でした。

保護司さんからも自分に会うのが楽しみだと言ってもらったので、年齢的には自分の母親と、おじいちゃんおばあちゃんの間くらいでしたけど、本当に親戚のおばさんみたいな感じで、気軽に手を振ったり、会ったら声を掛け合えるような方でした。保護観察が終わっても、それまでどおり会ってくれていた時期があつて、保護司の「仕事」としては終了しているはずなのに、そこまで自分のことを気にかけてくれる人がいるんだっていうことが、とても嬉しかったし、心強かったです。

―保護観察や保護司さんとの出会いが、今のご自身に生かされている点がありますか。

**橋島** 自分は周りに恵まれているんだと意識できるようになっ

たことです。困ったときに助けしてくれる人が周囲にはいるんだということが分かったし、そうしたときに感謝できるようになったことが大きいと思います。保護司さんと出会う前までは、そんなことは感じられなかった。―保護観察が終わつてからも、たくさんの出会いがあつたようですね。

**橋島** 保護観察が終わつてから上京して、1年くらいサラリーマンをした後、たまたま入ったBARの店主が由利本荘の人で、すぐ意気投合して、そこで働き始めました。東京にいるのになんどん訛つていく自分がいて(笑)。それから東日本大震災があつて地元に戻ってきたんですけど、東京でBARをやっていたことを知ってくれていた別のBARから声をかけてもらつてからは、独立するまでそこで働い

ていました。どこの環境にいても、周りがすごくいい人だったなと感じていて、そう思えるようになったのは、保護司さんのおかげだと思っています。―非行をしていた当時とは、内面も変化しようですね。

**橋島** 周囲は「他人」だから、自分さえよければいいという見方しかできなかった自分が、周囲には自分を気にかけてくれる人がいるんだということを認識できるようになりました。怒る人がいたとしても、どうして怒るのかを考えるようになって、自分のためを思つて怒ってくれていると理解できるようになったのは、とても大きかったと思います。

―橋島さんはその後市議会議員になられました。保護司さんとの縁も感じます。

**橋島** 保護司さんは私が市議会

議員になる前に亡くなれてしまいましたが、すごく大きな縁を感じます。一昨年の豪雨災害のボランティアをきっかけに自分は市議会議員に立候補しようと思っ

たんですけど、それまで保護司さんのことは忘れることではなくて、常に頭にありました。当選させてもらうことがあれば、

いずれは保護司を目指そう、そして、非行をした人を担当することがあれば、お世話になった保護司さんが当時の自分にしてくれたように接しようと思っ

ています。  
**時間がかかっても自分と向き合ってくれる人との出会いが、立ち直りには大切**

—立ち直りのきっかけをつかめない人たちもたくさんいます。非行をした少年たちにとって、

大切なことはどんなことでしょうか。

**橋島** 保護観察を受けていた身として、自分から言えるのは、立ち直りにとって、関わり続けてくれる人の存在はすごく大事

だということ。非行の背景には、家庭環境や経済的な不安定、孤立などが一般的にはある

と思います。自分だけで片付けられない問題ってすごい多いんです。ですので、自分もい

まだにそうですが、一度非行をしてしまうと、あいつはこういう問題のある奴だというレッテルを貼られる。  
レッテルはなかなか剥がれないし、それをどう捉えるかは結局は自分次第ではあるんですが、人間だから失敗は必ずする。そのときに、失敗を責めるわけでもなく、突き放すわけでもなく、時間がかかっても向き合っ



くれる人との出会いが、とても大事なんだと実体験として感じています。

—非行をした少年たちに寄り添い、立ち直りを支えるためには、その過程で裏切られることもたくさんあると思います。

**橋島** そうですね。自分が悪いことをしても、そんな自分でもしっかり話を聴いてくれる、信じてくれる人がいる、しっかりと向き合ってくれる人がいるってわかったときが、更生できるきっかけになるのだと思います。当時は子供だったので分からなかったですけど、大人になった

今はそう思います。

**社会に触れることで得られる「頼られている」という実感**

—先ほど、保護観察中はアルバイトを掛け持ちしていたとうかがいました。働いてみて、気づきや変化はありましたか。

**橋島** アルバイトをして、お金を稼ぐ大変さを実感しました。1か月働いて貰える給料はこれくらいなんだというのが初めて分かって、自分はこれを人から奪ったんだと思いました。一生

保護司制度について詳しくは…

秋田県の更生保護

<https://akita-kouseihogo.com>



← ホームページ「秋田県の更生保護」の二次元コードです。



懸命働いて得たお金を自分みたいな人に盗られるとどういう気持ちになるか、想像できるようなったと思います。社会に触れて、社会の厳しさを知ったからこそ相手のことを理解できるようになったと思います。

―社会に触れることで、自分も社会の一員であることを実感する。その経験を得ることで、考え方や人との接し方が変わってくると思います。

**橋島** そうですね。仕事に限らず、人から頼られることはすごく大事なことでないかと感じるようになりました。アルバイト先で人手が足りないからとシフトに入ってもらえないかとお願いされたとき、勘違いかもしれないですけど、他にもアルバイトがいるのに、自分に声を掛けてくれるのは自分が仕事できているからかなって思ったりして、必要とされているんだという認識を持つだけで、考え方とか見方って変わるんだと思います。

友人や家族からも同じだし、立ち直りとっても、頼られるということはとても大事だと思います。

―必要とされていると実感すること、自分がいるべき、いてもいい「居場所」を見つけられる。立ち直りにとっては大事で

**すね。**

**橋島** 居場所は人から用意されるものではなくて、自分から得ていくものだと思います。大人になっても、職場の環境が合わないと感じている人も多いかと思いますが、自分が環境に適応していくということも大事なのではないでしょうか。

周囲の環境を自分に合わせるというのは独り善がりで、それこそ非行をしていたときの自分はそのように考えていました。

―周りのせいにしたり、社会のせいにして、自分と向き合うことから避けてしまう傾向もあります。

**橋島** 自分は非行をしている人たちの気持ちはわかるので、やっぱりその場を支配したいとか、自分の好き勝手に振舞いたいという少年は多いと思います。そういうとき、自分はいまうまくいっ

ているという認識を持つはずなんですけど、ただその手法が間違っているのかなと思います。例えば、職場で仕事を依頼されたとき、自分は必要とされていると認識することで、周囲から感謝されたり、信頼されるようになる。そのことで仕事がいい方向に転がっていくし、職場を自分の雰囲気に変えていける。

環境は自分に合わせてくれないから、自分で環境に合わせていく、その上で、いい環境にしていくといいのかなと思います。

**更生保護は地域全体の課題。「自分事」として捉えられることが重要。**

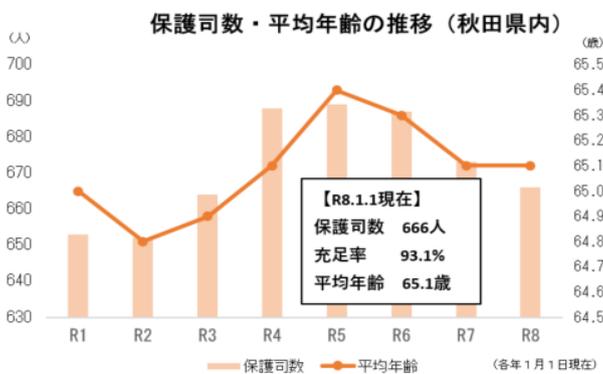
―お話しいただいた保護司についてですが、保護司を取り巻く環境はいま変革期を迎えています。なり手不足、高齢化、安全対策

などの課題について、有識者会議の報告を経て、昨年12月には保護司法が改正されました。一方、昨年の世論調査によれば、保護司の認知度は約67%に留まり、約86%の人たちは頼まれても引き受けないと回答しています。

非行からの立ち直りを遂げた立場として、市議会議員として、また商工会青年部として、これからの保護司や更生保護に期待していることを教えてください。

**橋島** 更生保護は地域全体の課題だと思えます。市議会議員として半年ちよつと活動させていただいています。例えば、学校、福祉、警察、司法などがしっかりと連携して、地域全体で更生保護を捉えていく必要があるのではないのでしょうか。また、事件が多くなったときに保護司さんの負担を軽減することにつ

いても大事だと思えますし、保護司活動への理解や協力も必要です。  
 ―地域全体で更生保護を捉えていくという視点で言えば、例えば由利本荘市さんにおいても再犯防止推進計画を策定いただいでいて、その趣旨が示されています。また、この会場のある建



物内には更生保護サポートセンター(※1)が設置されていて、保護司活動の拠点として負担軽減にも寄与しています。さらに、ご出席いただいた保護司セミナー(※2)や、登録いただいた保護司活動メンバーシップ(※3)にも力を入れているところです。

**橋島** そうですね。保護司セミナーは実は商工会の青年部長が来る予定だったんですけど、「自分に行かせてほしい」と志願して出席しました。地域や関係機関の方々に保護司について理解

いただきながら、更生保護を自分事として捉える世の中をつくること、そして活躍できる機会を創出することが大切であると考えています。  
 ―機会創出という意味では、更生保護は社会生活を送りながら立ち直りを支えていくところに特徴があります。社会に触れる

ためのきっかけづくりについて、是非アドバイスをいただければか。

**橋島** ボランティアも社会に触れるきっかけとして大切だと思います。

青年会議所や商工会として、災害ボランティアに真っ先に行かせてもらっています。大船渡での火災や秋田での豪雨災害の際など、ボランティアの先頭として務めさせていただきました。災害ボランティアをしていっていると、「来てもらって本当によかった」ってすごく感謝されるんですね。因果応報という言葉があります。困った人を助けるということが、自分が困ったときに助けてもらうということにもつながるんだと思います。  
 ボランティアやアルバイトなどを通して社会に触れることで、

失敗しても立ち直れる、やり直せるということを実感してほし  
いですね。目標は大きくなくて  
いいので、小さな目標を積み上  
げていって、その結果を出して  
いく喜びを実感していくのが大  
事じゃないかと思っています。

### 当事者の声をもっと社会へ 届けたい。

—本日は貴重なお話をありが  
うございます。保護司さんとの  
出会いや社会とのつながりを通  
じて、橋島さん自身に変化が生  
まれ、今に至っていることが分  
かりました。人とのつながりを  
大事にするお気持ちは、今回の  
インタビューをお引き受けいた  
だいた理由にもつながるように  
思います。

**橋島** 自分を含め、過去に保護  
観察を受けて立ち直った当事者

の声をもっと社会に届けていく  
べきだなと思っています。後ろ  
めたい、隠したいと思いがちで  
すが、自分としては、自分がや  
ったことは隠すべきではないと  
思っていて、できれば表に出し  
た方がいいとも思っています。  
隠し事をして人と付き合っても、  
本当に深いつながりにはならな  
いと思うからです。

過去に非行をしていたことで  
レッテルを貼ってくる人もいま  
すが、そういう人たちは実は自  
分とかかわりの薄い人だったり  
します。特に選挙に立候補して  
人前に出る機会が増えたとき、  
「あいつは昔はこうだった」だ  
とか、SNSでたくさんDMが送  
られてきました。でも、それは  
否定しないし、受け入れるよう  
にしています。いまだに言われ  
るということは、世間の評価は  
過去の自分の方が大きいという

ことです。今の自分の評価が過  
去の自分を上回ったときに、そ  
うした声は自然と消えていくも  
のだと思うので、そう思われる  
ようにもって頑張らないといけ  
ないと思っています。

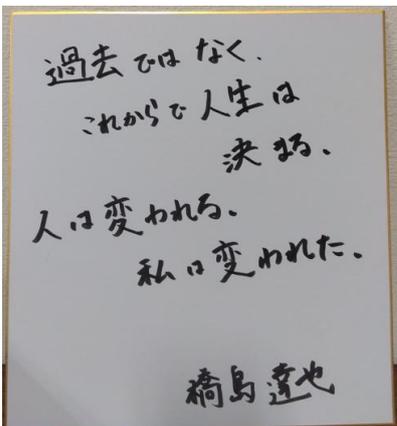
### 見放さない覚悟は人の未来 を支えている 人生は何度でもやり直せる

—最後に、保護司の皆さんやこ  
れから保護司になろうと考えて  
いらっしやる方、そして、非行  
から立ち直ろうとしている人や  
そのご家族に対して、メッセー  
ジをお願いします。

**橋島** 私は、自分のことを信じ  
てくれて、自分と関わり続けて  
くれた人がいたおかげで、人生  
を立て直すことができました。  
保護司の方々、そしてこれから  
保護司になろうとしているの方々

には、見放さないという覚悟は  
確実に人の未来を支えている、  
ということを心にとめておいて  
ほしいなと思います。

そして、非行から立ち直ろう  
としている人やそのご家族には、  
過去はどうであれ、人生は何度  
でもやり直せます、私自身がそ  
の証です。あなたを信じてくれ  
る人が必ずいるので、一人で抱  
え込まないで、周りに相談して  
くださいということを伝えたい  
です。  
—本日はありがとうございました。





【インタビューを終えて】  
 非行を重ねていた少年が、保護司との出会いを通じて、同じ市議会議員として活躍されている姿をきくと今も遠くから見守っていらっしやるのではないかと、そう思いながらお話をうかがいました。多くの方々に保護司の存在や立ち直りを支えることの大切さを感じていただければ幸いです。(写真左は本荘地区保護司会・佐藤道幸会長)

- ※1 「更生保護サポートセンター」：保護司会活動の拠点として、公的施設等に設置されている。経験豊富な保護司が常駐しており、個々の保護司活動を支援しているほか、保護観察対象者等との面接場所としても利用されている。
- ※2 「保護司セミナー」：保護司が地域の関係機関・団体、民間企業等に対して保護司活動等を紹介する保護司会連合会主催のセミナー。秋田県では令和5年以降毎年開催している。
- ※3 「保護司活動メンバーシップ」：将来的に保護司候補者となることが見込まれる人たちの情報を保護観察所及び保護司組織が組織的に把握し、継続的に更生保護活動に関する情報提供等の働き掛けを行う取組。秋田保護観察所では令和7年10月から運用を開始。(以下図参照)。

## 保護司活動メンバーシップについて

- 秋田保護観察所と秋田県内の保護司組織では、保護司について知っていただき、より身近に感じていただけるよう「**保護司活動メンバーシップ会員**」へのご登録をお願いしています。
- ご登録いただいた場合は、更生保護に関連する情報やご案内を随時送付させていただきます。
- 「登録書」を保護観察所又はお近くの保護司・保護司会にお送りいただければ、会員となることができます。
- なお、登録はご希望に応じていつでも削除することが可能です。

